

本田作業は土づくり肥料の施用でスタート

近年の土壌分析結果では、有効態けい酸は、一部地区で不足しています。遊離酸化鉄は全域で不足するほ場が多く、特に川沿いで多い傾向です。

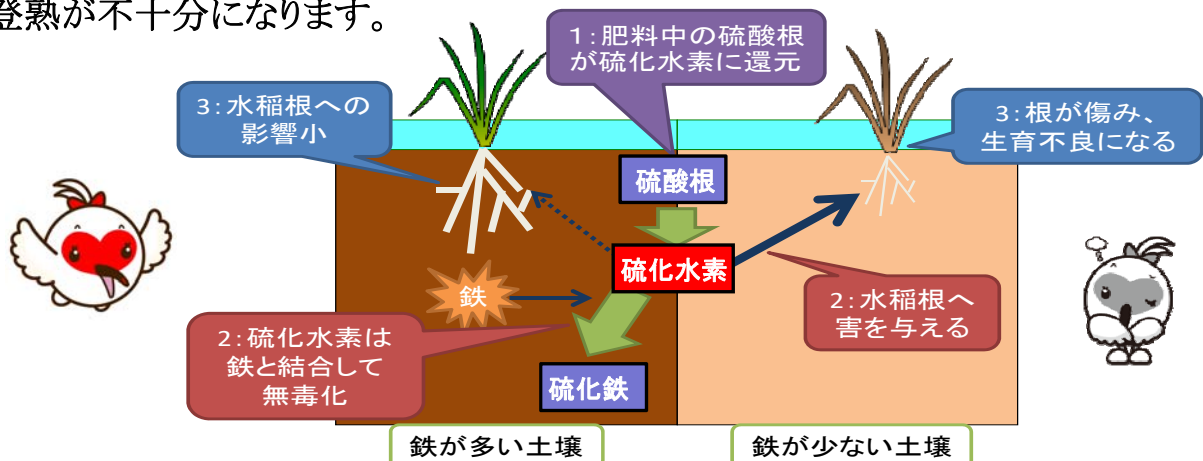
1 鉄とケイ酸の効果！

○鉄(遊離酸化鉄)の働き

- ・稲の根に害を与える硫化水素と結びついて無害化し、水稻の根を守ります。
- ・不足すると、根腐れの原因となり、秋落ちが発生する可能性があります。

○ケイ酸(有効態ケイ酸)の働き

- ・根の発達を促し、茎や葉を丈夫にします。
- ・不足すると根の吸水力並びに葉の蒸散量や光合成速度が低下し、特に高温の年には登熟が不十分になります。



○不足分は土づくり肥料の春施用で補いましょう

- ・遊離酸化鉄が不足の場合→魚沼ロマンアイアンスター:60~80kg/10a
- ・有効態ケイ酸が不足の場合→魚沼ロマンソイルキーパー:40~60kg/10a

2 耕深15cmのすすめ

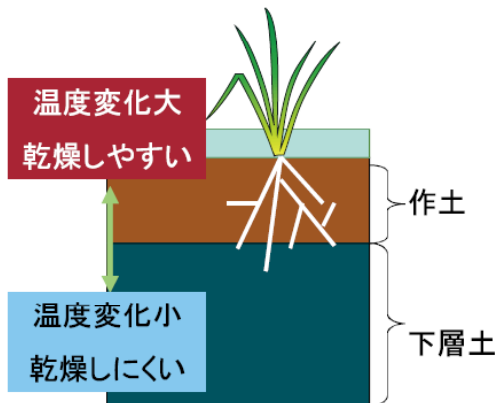


図1 水田土壌断面図

○水稻の根の8割以上は、作土層に分布し生育に必要な栄養のほとんどを作土層から得ています。15cmの深さで耕し、十分な作土深を確保しましょう。

土壌の上の方が、外気の影響を受けやすく、乾燥しやすい。作土が浅いと根が上部に集中し、水稻の抵抗力が低下。

不明な点は農協営農センターまたは普及センターまでおたずねください。携帯メール会員募集！営農センターへお問い合わせください。